

令和5年度 都留市博物館協議会  
(第1回会議)  
資料 1

これまでのミュージアム都留事業報告  
及び  
今後の運営体制（案）について

## OR4年度 ミュージアム都留事業実績

### ●美の造形－根付×日本刀 世界を魅了する美術工芸の世界（7/23～9/25）

国際根付彫刻会共催、公益財団法人京都清宗根付館、日本美術刀剣保存協会山梨県支部の協力により、全国の現代根付作家や山梨県在住の刀鍛冶等約60名の作品を一堂に集め、日本初となる町人と武士の腰回りを飾った文化である「根付」と「刀剣・刀装具」のコラボレーション展示を行った。

また関連イベントとして国際根付彫刻会会長による総合展示解説や根付制作講座、刀装具講座、銘切体験講座、日本刀初心者講座を実施した。

### ●今井コレクション寄贈記念 増田誠新収蔵品展（12.10～2.12）

### ●今井コレクション寄贈記念 増田誠新収蔵品展vol.2（3.25～5.28）

「増田誠のあゆみ展」（昭和51年・小田急百貨店にて開催）において出展された増田誠氏資料6点の作品が、令和3年度に、増田誠と親交があり増田作品のコレクターであった秋田県大館市の今井篤氏のご遺族より当館に寄贈され、これらの資料を中心に展示を実施した。また、一部展示入替を行い、第2弾として展示を開催した。

その他、関連イベントとしてギャラリートークを数回にわたって開催した。

### ●その他のイベント

夏季には将棋の駒彫り体験教室を実施した。また冬季には刀装具講座、春季には銘切体験講座や将棋の根付教室を開催した。

また、5月と9月と1月に古文書講座を実施した。古文・漢文に親しみやすい教材として、2022年に大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で扱われた『吾妻鏡』を扱った。

## ○中期基本計画（R1～R4）のミュージアム都留の目標指標

指標	数値	算出方法	方向性	単位	現況値	中間目標 (2021)	目標値 (2022)
歴史文化施設入館者数	小計	生涯学習課調査	↑	人	15,200 (2017)	16,609	17,108

## ○中期基本計画期間（R1～R4）の合計入館者数

4年間合計 22,006人

- ・ R1 : 7,820人
- ・ R2 : 5,081人
- ・ R3 : 3,793人
- ・ R4 : 5,312人

⇒2017年度現況値～目標値までの想定人数を上回る結果となっている。

※内、企画展における集客は10,160人（※一部令和5年度期間含む）

## ○中期基本計画期間（R1～R4）ミュージアム都留の取組（企画展）

R1 : 3,277人

- ・ 遊び心と細密美-根付 欧米を魅了したアート (7/13～9/15) 2,401人
- ・ 郷土の画家展 -つながる子弟 (11/9～1/12) 402人
- ・ 凜たる美駒 -将棋の駒 将棋の道具にみる美術工芸の世界 (2/1～3/1) 474人

R2 : 3,764人

- ・ 崇高なる造形 -日本刀 名刀と名作から識る武士の美学【特別展】 (11/7～1/24) 2,971人
- ・ 生誕100年 増田誠 -パリに描いた知られざる人生 (3/13～R3.5.9) 793人

R3 : 847人

- ・ 将棋駒の美 - 掌中にある匠の技と心 (7/24～9/26) 445人
- ・ ミュージアム都留 収蔵展 近現代の都留 (3/19～5.15) 402人

R4 : 2,013人

- ・ 美の造形-根付×日本刀 世界を魅了する美術工芸の世界 (7/23～9/25) 1,550人
- ・ 増田誠新収蔵品展 (12.10～2.12) 463人
- ・ 増田誠新収蔵品展vol.2 (3.25～5.28) 259人

## R 1

凜たる美駒 -将棋の駒 将棋の道具にみる美術工芸の世界

- ・現代根付師による根付教室
  - ・駒師「雀峯」による将棋の駒小根付体験教室
- 郷土の画家展 -つながる子弟
- ・駒師「雀峯」による将棋の駒根付体験教室
- 遊び心と細密美-根付 欧米を魅了したアート
- ・将棋の駒根付体験教室

## R 3

将棋駒の美 - 掌中にある匠の技と心

- ・刀装具講座
- ・銘切り体験講座
- ・将棋の駒彫り体験教室

ミュージアム都留 収蔵展 近現代の都留

- ・ギャラリートーク
- ・古文書講座（吾妻鏡）

## R 2

崇高なる造形 -日本刀 名刀と名作から識る武士の美学

- ・スライドレクチャー 「日本刀の魅力に迫る」
- ・刀剣・刀装具相談会
- ・講演 「刀装具とは」
- ・現代刀匠による「銘切り実演」
- ・初心者講座「日本刀に触れてみませんか」
- ・鞘制作講座

生誕100年 増田誠 -パリに描いた知られざる人生

- ・講演会

## R 4

美の造形-根付×日本刀 世界を魅了する美術工芸の世界

・フルート×ピアノ「ミュージアム都留」で過ごす午後のひと時

- ・現代根付師による根付制作講座
- ・刀装具講座「肥後金工について」
- ・刀鍛冶に学ぶ銘切体験講座
- ・初心者講座「日本刀に触れてみませんか」
- ・【本格】将棋の駒彫り体験講座
- ・現代刀匠による銘切体験講座
- ・現代根付師「和明」による根付制作講座

増田誠新収蔵品展

- ・ギャラリートーク
- ・後藤家から学ぶ刀装具の世界
- ・古文書講座（吾妻鏡）

増田誠新収蔵品展vol.2

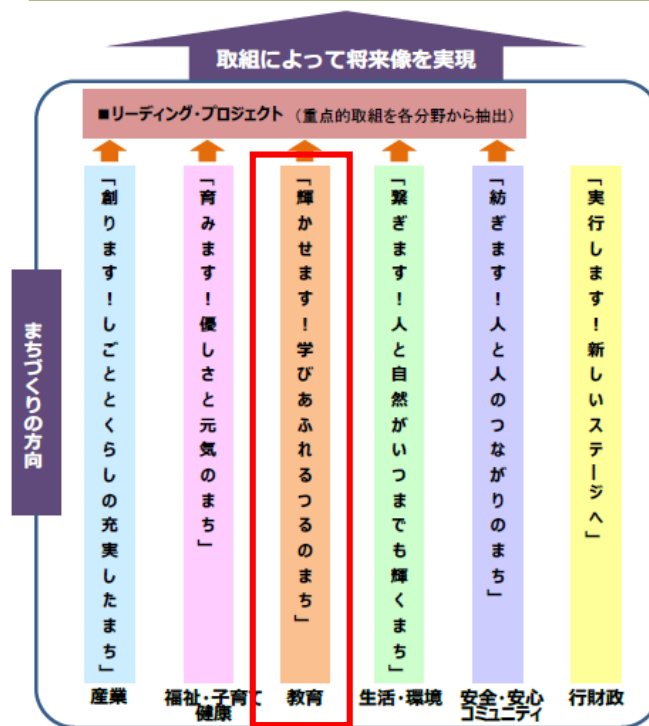
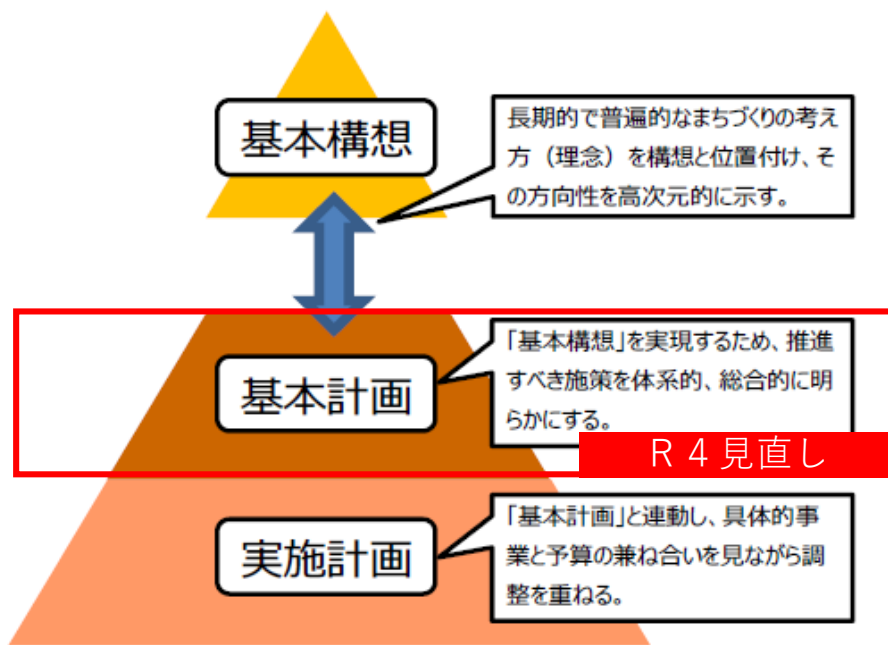
- ・ギャラリートーク
- ・現代刀匠による「銘切り」体験講座
- ・「将棋の駒」根付教室

・長期総合計画は、市のいろいろなまちづくりの取り組みをまとめた長期にわたる総合的な計画であり、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の三層において計画の実施を図るもの。本計画期間は11年間（平成28年度～令和8年度）で設定しており、昨年度見直しを行い設定した「後期基本計画」は令和5年度～8年度の4年間に該当する。

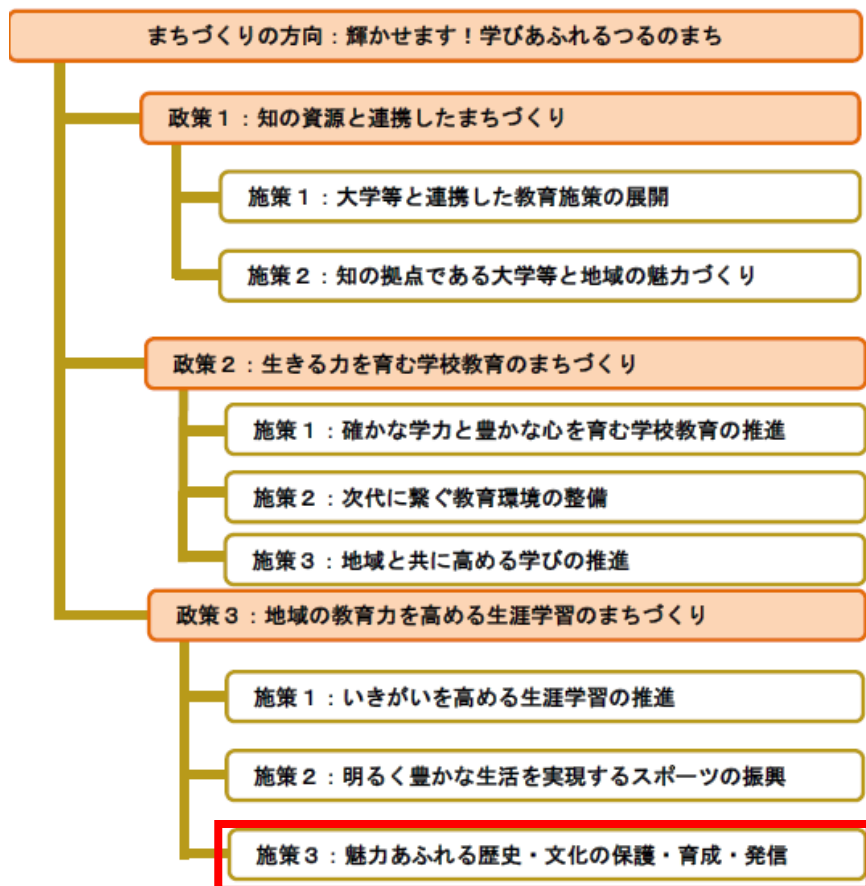
・基本計画では、将来像である「ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる」の達成のため、6つのまちづくりの方向と、その方向からピックアップした重点施策（リーディング・プロジェクト）を位置付け。うち、教育分野に係る方向性として、「輝かせます！学びあふれるつるのまちづくり」を設定している。

## ■まちづくりの方向とリーディング・プロジェクト

ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる



- ・文化財の活用や博物館施設の運用については、後期基本計画における「輝かせます！学びあふれるつるのまち」の「政策3：地域の教育力を高める生涯学習のまちづくり」における「施策3：魅力あふれる歴史・文化の保護・育成・発信」に位置付けている。
- ・「施策3：魅力あふれる歴史・文化の保護・育成・発信」の内容として、「本市の由緒ある歴史文化を積極的に保護・活用し、大名行列やお茶壺道中などをはじめとする歴史的行事、文化財、寺社などの特色ある文化資源などを活用し、情報発信するとともに、歴史文化のまちを後世へ伝え、伝承する体制づくりを推進します」とし、それに伴う指標（「歴史文化施設入館者数」「市民学芸員として活動している人」）を設定。
- ・新型コロナウイルス感染症に伴う様々な活動の停滞や地域の文化に詳しい方々の高齢化等に伴う担い手の減少など、地域文化に係わる人材の育成が大きな課題となっていることから、市民学芸員の活動人数を後期では新規の指標として設定した。 ※観光分野においてもシビックプライドの醸成などを設定している。



**施策3**

**魅力あふれる歴史・文化の保護・育成・発信**

本市の由緒ある歴史文化を積極的に保護・活用し、大名行列やお茶壺道中などをはじめとする歴史的行事、文化財、寺社などの特色ある文化資源などを活用し、情報発信するとともに、歴史文化のまちを後世へ伝え、伝承する体制づくりを推進します。

◆主要な取組

- ・芸術文化事業の推進
- ・本市の文化資源を活用した講座等の充実
- ・博物館、資料館等の適正な管理と展示の充実 等

**成果指標**

指標	算出方法	方向性	単位	現況値 (R4)	中間目標 (R7)	目標値 (R8)
この施策の満足度	「充実している」「結構充実している」の合計	↑	%	20.8	25.5	—
歴史文化施設入館者数	年度末実績 (ミュージアム都留、商家資料館、尾県郷土資料館の入館者数)	↑	人	6,300	7,600	8,200
市民学芸員として活動している人	活動している人数	↑	人	1	2	3

### H23 谷村大堰と人々の暮らし展

【フィールド活用】家中川を歩き詠む

※博物館実習の一環・市民学芸員案内による実施

### H24 都留、地名の旅—郷土の記憶をめぐる—

【郷土研究会・都留第二中学校】講演会

※郷土研究会作成の『都留市地名事典』の成果を展示に反映。郷土研究会内藤先生、県立考古博物館主催「第9回わたしたちの研究室」において「古代『都留郡』の謎」のテーマで最優秀賞を受賞した都留二中（当時）上原氏による講演を実施。

【フィールド活用・市民学芸員養成講座】地名からみた都留

### H25 甲斐絹展

【フィールド活用・市民学芸員養成講座】絹の道『近ヶ坂往還』を歩く

※宝地域協働のまちづくり推進会の宝健康づくりウォーキングと共同で開催

### H25 私とあなたの都留アルバム

【フィールド活用・市民学芸員養成講座】古写真の城下町を歩く ※都留文科大学地域交流研究センターと連携

### H26 都留・古道の旅

【フィールド活用】富士道を歩く（大月～禾生、禾生～谷村町）

### H27 戦後70年 都留・あなたが見つめる戦争の時代

【市民団体連携】ひびきの会朗読会 ～戦争時代のことば

【フィールド活用・市民学芸員養成講座】大月の戦争遺跡を歩く

### H27 谷村代官の治世と文化

【フィールド活用・市民学芸員養成講座】谷村城下町を歩く ※山梨県考古学協会地域大会と組み合わせて実施

### H27 私とあなたの都留アルバム

【フィールド活用】古写真の城下町を歩く ※都留文科大学地域交流研究センターと連携

### H28 都留の近代建築～藤村式建築の成立と保護～

【フィールド活用】都留市の近代建築まちあるき

### H29 郷土の画家展

【フィールド活用・市民学芸員養成講座】郷土画家の原風景を歩く

### R 1

凜たる美駒 -将棋の駒 将棋の道具にみる美術工芸の世界

- ・現代根付師による根付教室
- ・駒師「雀峯」による将棋の駒小根付体験教室
- 郷土の画家展 -つながる子弟
- ・駒師「雀峯」による将棋の駒根付体験教室
- 遊び心と細密美-根付 欧米を魅了したアート
- ・将棋の駒根付体験教室

### R 3

将棋駒の美 -掌中にある匠の技と心

- ・刀装具講座
- ・銘切り体験講座
- ・将棋の駒彫り体験教室
- ミュージアム都留 収蔵展 近現代の都留
- ・ギャラリートーク
- ・古文書講座（吾妻鏡）

### R 2

崇高なる造形 -日本刀 名刀と名作から識る武士の美学

- ・スライドレクチャー「日本刀の魅力に迫る」
- ・刀剣・刀装具相談会
- ・講演「刀装具とは」
- ・現代刀匠による「銘切り実演」
- ・初心者講座「日本刀に触れてみませんか」
- ・鞆制作講座
- 生誕100年 増田誠 -パリに描いた知られざる人生
- ・講演会

### R 4

美の造形 -根付×日本刀 世界を魅了する美術工芸の世界

- ・フルート×ピアノ「ミュージアム都留」で過ごす午後のひと時
- ・現代根付師による根付制作講座
- ・刀装具講座「肥後金工について」
- ・刀鍛冶に学ぶ銘切体験講座
- ・初心者講座「日本刀に触れてみませんか」
- ・【本格】将棋の駒彫り体験講座
- ・現代刀匠による銘切体験講座
- ・現代根付師「和明」による根付制作講座
- 増田誠新収蔵品展
- ・ギャラリートーク
- ・後藤家から学ぶ刀装具の世界
- ・古文書講座（吾妻鏡）
- 増田誠新収蔵品展vol.2
- ・ギャラリートーク
- ・現代刀匠による「銘切り」体験講座
- ・「将棋の駒」根付教室

・中期基本計画期間の関連イベントについては、従前記載しているKPI（入館者数）の達成に寄与している。またミュージアム都留協力会の研修旅行などに活用可能な会費等の収入にもグッズ売上やイベントでの売り上げは貢献しており、成果といえる。

・対して、都留市というフィールドを活用した取り組みや、住民を巻き込んだ取り組み等、**地域資源を生かした展示や関連イベントが減少しており**、後期基本計画における目標である市民学芸員の養成や、シビックプライドの醸成にも大きくかかわる「地域性」のある教育普及や、地域団体や都留文科大学生といった「主体的に活動する団体」との協力体制の構築など、改めて博物館運営のスキームを見直していく必要がある。



## ●山梨の偉人 田村四将軍 日露戦争の立役者と山梨の刀工

明治陸軍において優れた戦略家として名を馳せた軍人田村怡与造をはじめ、山梨出身の田村家からは四人の陸軍中將が輩出されており、また、三兄弟の父・田村義事は「一徳齊助則」の名で知られた甲州刀の代表工である。本企画展では、山梨の隠れた偉人を輩出した田村家について、刀剣資料やその他関連資料を通じて、その功績や生涯を明らかにすることを目的とする。

## ●森嶋其進展一郷土のために尽力した学者（仮題）

甲斐国の地誌であり、山梨県史の基礎資料となる「甲斐国志」において、都留郡の編纂主任を務めたのが森嶋其進である。其進は下谷村の生まれで実家は商人であったが、学問を修めることを目指して江戸の昌平坂学問所で学び、その後、実家を跡を継ぐために谷村に戻ってからは、天明の飢饉の際に倉を開放して人々を救済する等、地域に尽力したとされる。その後『甲斐国志』の編纂が始まると、森嶋は昌平坂学問所で学んだ能力を活かして自身の私塾である「朋来園」を編集所とし、都留郡の史跡や史料を調査している。本展では、都留市指定文化財『森嶋家文書』をはじめとした森嶋其進の人物像や功績に係る関連資料を通じて地域の学びを深めるとともに、市民のシビックプライドの醸成につなげる。

## ●都留の埋蔵文化財展（未定）

旧石器時代から江戸時代までの遺跡が都留市には多数が存在する中、令和3年度には縄文時代の遺跡である「桃園遺跡」の発掘や、令和4年度には古代の遺跡である「城の腰第二遺跡」や「三ノ側遺跡」の発掘が行われた。これらの調査の結果、桃園遺跡からは「有孔鍔付土器」、 「城の腰第二遺跡」からは奈良時代の墨書土器が出土し、また、「三ノ側遺跡」では中世のものとされる人骨が出土する等、幅広い成果が見られる。こうした調査結果を通して、市民に対して発掘や遺物をより身近なものに感じてもらい、埋蔵文化財保護への一層の理解を深める展示とする。

●山梨の偉人 田村四将軍 日露戦争の立役者と山梨の刀工

- ・初心者講座「日本刀に触れてみませんか」…初心者向け日本刀についてのレクチャを実施。

●森嶋其進展一郷土の為に尽力した学者（仮題）

（仮案）

- ・ギャラリートーク
- ・史料読解講座（『甲斐国志草稿』など森嶋基進関係）
- ・市民学芸員養成講座としてのイベント、フィールドを活用した街歩きイベント取組等を実施予定

●都留の埋蔵文化財展（未定）

⇒前段としてR5発掘を行った「城ノ腰遺跡・三ノ側遺跡」に係るエントランスホールを活用したミニ企画

（仮案）

- ・埋蔵文化財発掘調査員等による講演会
- ・ギャラリートーク
- ・市民学芸員養成講座としてのイベント、フィールドを活用した街歩きイベント取組等を実施予定

●その季節イベント

- ・【本格】将棋の駒彫り体験講座
- ・【刀装具講座】「刀装と透鐔」
- ・刀匠による「銘切り体験講座」
- ・古文書講座「吾妻鏡」（昨年度3回実施 ⇒継続事業）
- ・白須慶子氏による民話会
- ・ライトダウンイベント（ナイトミュージアム・コンサート）
- ・折り紙教室（商家資料館活用）

- ・常態化しているイベントについては関連イベントと切り離して、別途本市ならではの取り組みとして実施する。
- ・後期では展示・イベント共に、「生涯学習」と地域の「研究成果」を掘り下げるものを重点的に実施する。
- ・その他、地域団体等との連携事業を実施していく。

今年度の6/29に実施した「都留市文化財審議会」において、事務局より市の文化財指定業務の今後の取り組みについて協議事項として提示した。

- ・ H 2 3以降、指定文化財業務が停止している。
- ・ 後期基本計画における「歴史文化の保護・発信」の観点から資料の認知度を高めていくことは重要である。
- ・ そのため、先行してミュージアム都留が所蔵（寄贈資料含む）する資料について改めて洗い出しを行い、個別具体的な調査を行う過程を経て、文化財審議会へ諮問を行い、継続的な指定業務につなげていくことを検討していく。

### 【イメージ】

初年度：指定候補案件の選定と調査 ⇒ 文化財審議会へ諮問 ⇒ 翌年度：文化財審議会による答申・指定

### 【各委員からの意見】

- ・ 指定業務に際し、無形文化財の担い手については深刻な問題であり、現状本市では指定の無形文化財は条例に種別としてあるが存在していない。平成24年に山梨県で民俗芸能緊急調査も実施され、戸沢の金山神社の神楽が調査をしている。こうしたデータに基づき指定制度を利用することで、お祭りの担い手に自分たちのお祭りの歴史や意義を知っていただく機会にもなる。企画展においても単に展示をするのではなく、例えば文化財指定の調書を作成して、展示品を指定する等、組み合わせで取り組むのが良いのではないか。ただ企画展をやってお終いというのはもったいないので、「指定」という視点を入れて博物館運営を図ることが望ましい。
- ・ 天神社の森嶋其進にゆかりのある常夜灯や、西願寺の枝垂れ桜については文化財指定を進めるべきと思う。
- ・ 本企画展への成果発表として、常夜灯については研究を深めてはどうか。指定文化財は特別交付税の対象となるため市へのメリットもあると思う。

### R5の方向性

⇒ 冬季企画展である「森嶋基進展一郷土のために尽力した学者（仮題）」において、常夜灯について調査研究を行い、今年度か次年度の文化財審議会へ諮問する（予定）。

⇒ また、平成29年に実施した「郷土の画家展」において、寄贈を受けた旭岳麟作『松竹梅鶴図屏風』については当時の展示に合わせて資料修復作業（襖を屏風に修復）や研究成果を積み上げている。こうした過去成果をより深掘したうえで、指定文化財として諮問する（予定）。

【R5（2023）】

- ・山梨の偉人 田村四将軍 日露戦争の立役者と山梨の刀工（夏季）
- ・森嶋基進展一郷土の為に尽力した学者（仮題）  
（冬季）
- ・都留の埋蔵文化財展（春季予定～R6）
- ・尾県郷土資料館 50周年（エントランスホール、現地等で実施）

- ・市民学芸員募集及び養成講座の再開、スキーム検討
- ・指定文化財業務との組合せ

【R6（2024）】関連性のあるテーマ

- ・松尾芭蕉関係展示（没後333年）  
⇒俳句大会時想定
- ・市制70年（1954～）に係る展示【マスト】
- ・ふるさと時代まつり40周年
- ・森嶋基進（甲斐国誌編纂より210年）
- ・防災に係わる展示

【R7（2025）】関連性のあるテーマ

- ・戦後80年
- ・秋元家転封より320年  
等
- ・厚原牛石遺跡発掘成果報告 等

【R8（2026）】関連性のあるテーマ

- ・檀一雄没後50年  
等

◆市民学芸員養成講座

※中期基本計画以前～中

⇒独自に実施のもの＋展示成果や企画展イベントに組み合わせ等で実施

- ・ H24 2回（地名からみた都留、谷村のまちたんけん隊 ～おまっちも谷村探検しべえ～）
- ・ H25 5回（4回は甲斐絹展関連イベント講座、谷村のまちたんけん隊）
- ・ H26 1回（古写真の城下町を歩く）
- ・ H27 3回（戦争遺跡を歩く 都留～大月、谷村城下町を歩く、谷村代官とその時代）
- ・ H28 なし
- ・ H29 1回（郷土画家の原風景を歩く）

※H30以降は実施していない。

◆学校への講師派遣

- ・ R 3 興讓館高校
- ・ R 4 (10/25) 禾生第一小学校4年生（1, 2組）社会 「八朔祭の歴史について」  
(10/26) 都留文科大学 北欧等留学生向け科目 「刀剣講座」

◆ふれあい講座

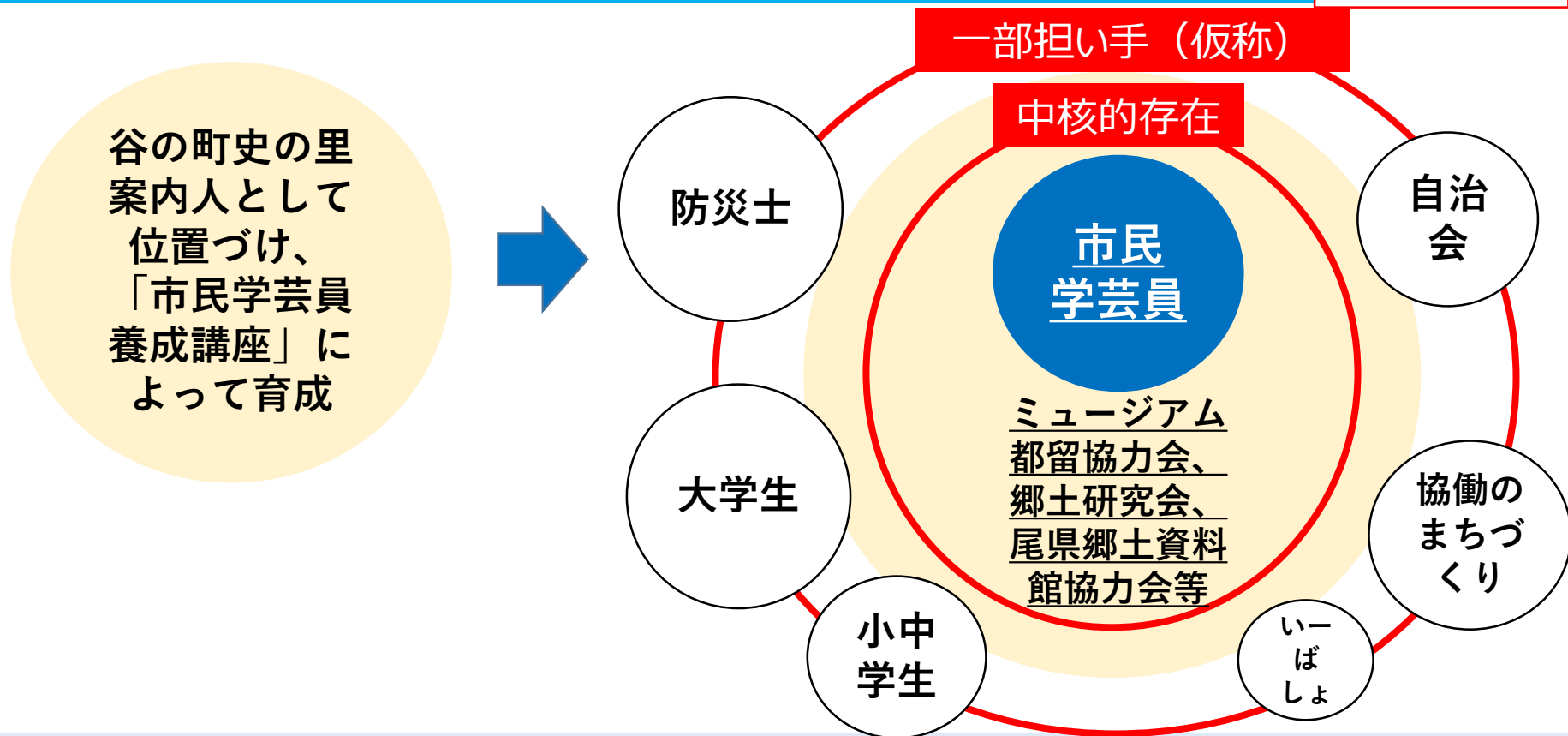
- ・ R 4 (10/12) 都留の歴史について 17名

◆博物館実習事業（都留文科大学資格取得関係）

- ・ R 1 11名（前期・後期2回に分けて実施）
- ・ R 2 11名（前期・後期2回に分けて実施）
- ・ R 3 21名（前期・中期・後期3回に分けて実施）
- ・ R 4 14名（前期・後期2回に分けて実施）

◆古文書講座（吾妻鏡）

- ・ R 4 (5/1) 14名、(9/23) 9名、(1/21) 15名



- ・現在は取り組みが停滞している「市民学芸員養成講座」については継続的に実施していく。
  - ・市民学芸員になりうる担い手として検討できるのは2パターン。
    - ・中核的存在…現在進行形で市民学芸員である市民や、今後担い手を希望する市民。また、歴史・文化の取り組みに係るキーパーソンの個人や団体。指導者・活動者としての「担い手」。
    - ・一部担い手(仮称)…防災士やいーばしょ、協働のまちづくり、自治会、大学等、個別具体的な活動を行う個人や団体。「歴史・文化事業」と親和性のある取り組みを行う個人・団体に対し、分野別の学びの場を提供・サポートし、柔軟な「市民学芸員」の育成につなげる。
- 例) 防災士に「災害史」を学ぶ機会を提供 等
- 【市民学芸員】が敷居の高いものではなく(学芸員も同様)、市民にとってより身近に活用可能なものとなるような体制を検討する。また、そのための「学習機会」の選択肢を増やしていく。
  - 同様に教育施設への積極的な派遣事業を行う。

# 【これまで】 現在のミュージアム都留の運営体制【入館料と収入状況】

## ○ミュージアム都留条例（現在）

（観覧料）

第8条 ミュージアム都留観覧料は、別表に定めるところによる。ただし、期間を定めて特別な博物館資料を展示する場合の観覧料は、市長が別に定めることができる。

（観覧料の免除）

第9条 市長は、観覧しようとする者に対し、特に必要があると認める場合は、規則の定めるところにより、前条の規定による観覧料を免除することができる。

別表（第8条関係）

区分	ミュージアム都留観覧料	
	個人	団体(20人以上)
一般	300円	210円
高校生 大学生	200円	140円
小学生 中学生	100円	70円

※特別展

区分	ミュージアム都留観覧料	
	個人	団体(20人以上)
一般	600円	420円
高校生 大学生	400円	280円
小学生 中学生	200円	140円

## 【現状の運用と結果】

ミュージアム都留は、博物館法に規定する公立博物館として、同法第14条の規定により県の博物館登録原簿に登録されている。なお、公立博物館は、博物館法第26条の規定により原則として入館料を徴収してはならないが、ミュージアム都留においては、同条ただし書の規定（但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。）を適用し、観覧料を徴収している。

ミュージアム都留の直近5年間の観覧料収入、入館者数等の状況は、次のとおりとなっている。

※入館者数は、観覧料を徴収しない場合を含む1年間の総数

年度	観覧料収入	図録等販売	入館者数	企画展等開催事業費	管理運営費
R4	534,070円	287,182円	5,312人	3,639,421円	26,164,199円
R3	388,270円	325,932円	3,793人	2,058,717円	14,607,121円
R2	1,308,700円	832,034円	5,081人	6,787,497円	26,147,828円
R1	673,210円	211,044円	7,820人	2,984,114円	13,477,912円
H30	1,063,500円	129,700円	9,376人	4,456,629円	14,293,760円

# 【これから】 令和6年度以降のミュージアム都留の運営体制【課題と今後の見直し案】

## ●現状の課題

・ミュージアム都留の本来の役割（何のための施設か）は、本市の歴史・文化を中心とする博物館資料の収集・保管・展示・調査研究に取り組み、市民文化の向上に資するものであり、図書館とともに生涯学習の場・ツールとして多くの市民に利用してもらうことである。

・観光的な視点においても、本市へ訪れた人が本市の歴史・文化に触れ、本市に対する理解を深め愛着を感じてもらうツールになりうる。このため、観覧料が必要なため入館を躊躇する人が一定数いるような状況は解消したい。

・なお、企画展が開催されている期間とそれ以外の期間において、展示内容、観覧範囲等に大きな差異があるが、観覧料は同額を徴収している。具体的には、企画展の開催期間の観覧料の徴収の対象は第1展示室と第2展示室であるが、それ以外の期間の観覧料の徴収の対象は第1展示室のみとなっている。このような現状を踏まえると、企画展の開催期間以外において、常設展の第1展示室のみに企画展開催期間と同額の観覧料を徴収することは、利用者の視点に立てば合理性を欠いている。

・上記を踏まえ、下記の通り入館料（および条例）の見直しを行う。R6以降は新たな条例に基づき博物館運営を行う。

## 【見直し案】

（観覧料）

第8条 ミュージアム都留の観覧料は、**原則として無料**とする。ただし、特別展及び一部の企画展は、別表に定める額の範囲内で観覧料を徴収することができる。

別表(第8条関係)

区分		ミュージアム都留観覧料	
		個人	団体(20人以上)
特別展	一般	600円	300円
	大学生	300円	150円
	高校生以下	無料	無料
一部の企画展	一般	300円	200円
	大学生	150円	100円
	高校生以下	無料	無料

入館料の設定は  
企画展・特別展  
時に都度協議の  
イメージ



## ※現状

図書館情報室の資料はミュージアム都留単独で保管しており紙記録（ファイルに貸出日などを記入する）による貸し出しを行っている。新型コロナウイルス感染症期間中は貸し出しを停止。なお、R1より図書館システムへの紐づけを検討しており、システムのみ準備をしている状態。先般、図書館担当者と改めて検討を図り、以下のように対応を図っていくこととした。

### 【令和5年度】

ミュージアム都留内の蔵書については、郷土資料が充実しているものの、大学紀要や防災計画など貸し出しに適していない蔵書も散見している。今後、図書館システムに図書館情報室蔵書を紐づけるため、「貸出を行う蔵書」とそうでないものを整理する。

↓

### 【令和6年度】

図書館システムに紐づけを行う人員を確保し入力作業を行う。

※R7.11末に図書館システム更改になるので、数か月前から移行作業が想定される。

R7夏頃までに登録完了が望ましい。登録完了が難しい場合は、途中までのデータで移行し、新システム切り替え後に登録再開となる。

↓

### 【令和7年度】

ミュージアム都留図書館を「都留市立図書館分館」として運用し、図書館本館にない資料は分館において貸出業務を行う。

都留市図書館設置条例（分館等）

第3条 図書館の活動を十分にするため必要があるときは、図書館の分館、閲覧所、配本所及び一坪図書館を置くことができる。

【R5 (2023)】

- ・山梨の偉人 田村四将軍 日露戦争の立役者と山梨の刀工 (夏季)
- ・森嶋基進展一郷土の為に尽力した学者 (仮題) (冬季)
- ・都留の埋蔵文化財展 (春季予定～R6)
- ・尾県郷土資料館 50周年 (エントランスホール、現地等で実施)

- ・市民学芸員募集及び養成講座の再開、スキーム検討
- ・指定文化財業務との組合せ

【R6 (2024)】 関連性のあるテーマ

- ・松尾芭蕉関係展示 (没後333年)  
⇒俳句大会時想定
- ・**市制70年 (1954～) に係る展示【マスト】**
- ・ふるさと時代まつり40周年
- ・森嶋基進 (甲斐国誌編纂より210年)
- ・防災に係わる展示

- ・新たな博物館運営の開始 (入館料等の見直し)

【R7 (2025)】 関連性のあるテーマ

- ・戦後80年
- ・秋元家転封より320年  
等
- ・厚原牛石遺跡発掘成果報告 等

【R8 (2026)】 関連性のあるテーマ

- ・檀一雄没後50年  
等

- ・教育委員会が企画立案する展示と併せて、市民が主体的に企画立案し、企画展示室なども活用しながら行う「市民展示」を実施。またその展示に際して、教育委員会がサポートを行う体制を構築していく方向で検討。
- ・職員の育成検討、また他館事例収集などを含めて「市民活用」が可能な施設を進めていく。